

レクチャー

報告書『東京の野鳥たち 月例探鳥会 7 か所・20 年間の記録』から読めること・1

昨年9月に発行した報告書『東京の野鳥たち 月例探鳥会7か所・20年間の記録』〔右図〕は、当会実施の月例探鳥会10か所のうち、東京都内にある7か所の探鳥地の、1995年度から2015年度まで20年間の記録をまとめたものです。

あまりにも膨大なデータのために、分かりにくい部分もあると思います。作成に携わった担当から、少しずつ解説していきたいと思います。



ある地域の鳥類相の特徴を知るには、「どんな鳥が」「どれだけいたのか」が基本になります。つまり「種類数」と「個体数」の記録が必要です。「種類数」と「個体数」の記録の変化をみれば鳥類相の変遷を知ることもできます。月例探鳥会7か所全体では「種類数」と「個体数」は20年間でどのように変わったのかを見てみましょう。

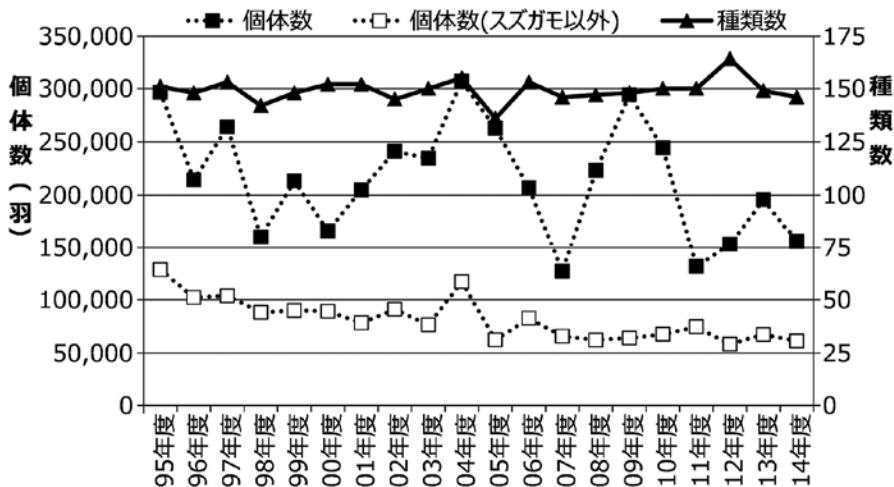
「種類数」は7か所全体で20年間に226種類が記録されましたが、1年あたりだと平均149.4種類でした。20年の間では136種類から164種類まで増減しましたがおおむね同じ水準で、種類数の増減の傾向ははっきりしませんでした(【表】の—▲—)。

「個体数」については、年によって約13万羽から約30万羽まで大きく変動していて、20年間の増減の傾向がはっきりしません(【表】の…■…)

これはスズガモ1種類の個体数が非常に多く、スズガモの個体数の増減に影響を受けているためでした。そこで、スズガモ1種の個体数を除いてみると、個体数は約6万羽から約13万羽程度になり、増減の幅も小さくなりました(【表】の…□…)。こうしてみると、スズガモを除いた個体数では20年間で約半分くらいまで減少していることが分かります。

月例探鳥会7か所は東京湾沿岸から高尾山までに点在していて、東京の環境の一部を代表しているといえるでしょう。この20年間で種類数はそれほど変わらないけれど個体数は半分くらいに減少している、というのは東京全体についてもあてはまるのかもしれませんが。

(御手洗 望)



【表】月例探鳥会7か所・20年間の個体数と種類数